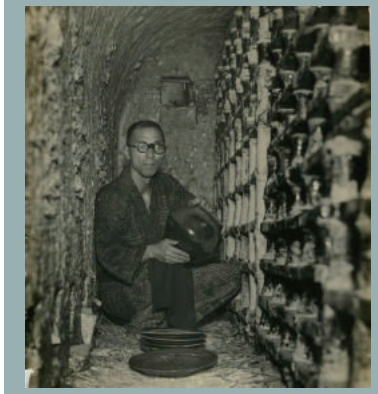
# 「川勝コレクション」とは?
What is KAWAKATSU Collection?

京都国立近代美術館は、かつて河井寛次郎と親交があり、多年にわたってその作品を収集した故川勝堅一氏から、寛次郎の作品群の寄贈を受けました。その数、なんと425点！ 質、量ともに最も充実しており、初期から最晩年にいたるまでの代表的な陶芸作品を網羅したもので、河井の仕事の全貌を物語る「年代作品字引」となっています。

## 鐘溪窯（しょうけいよう）について



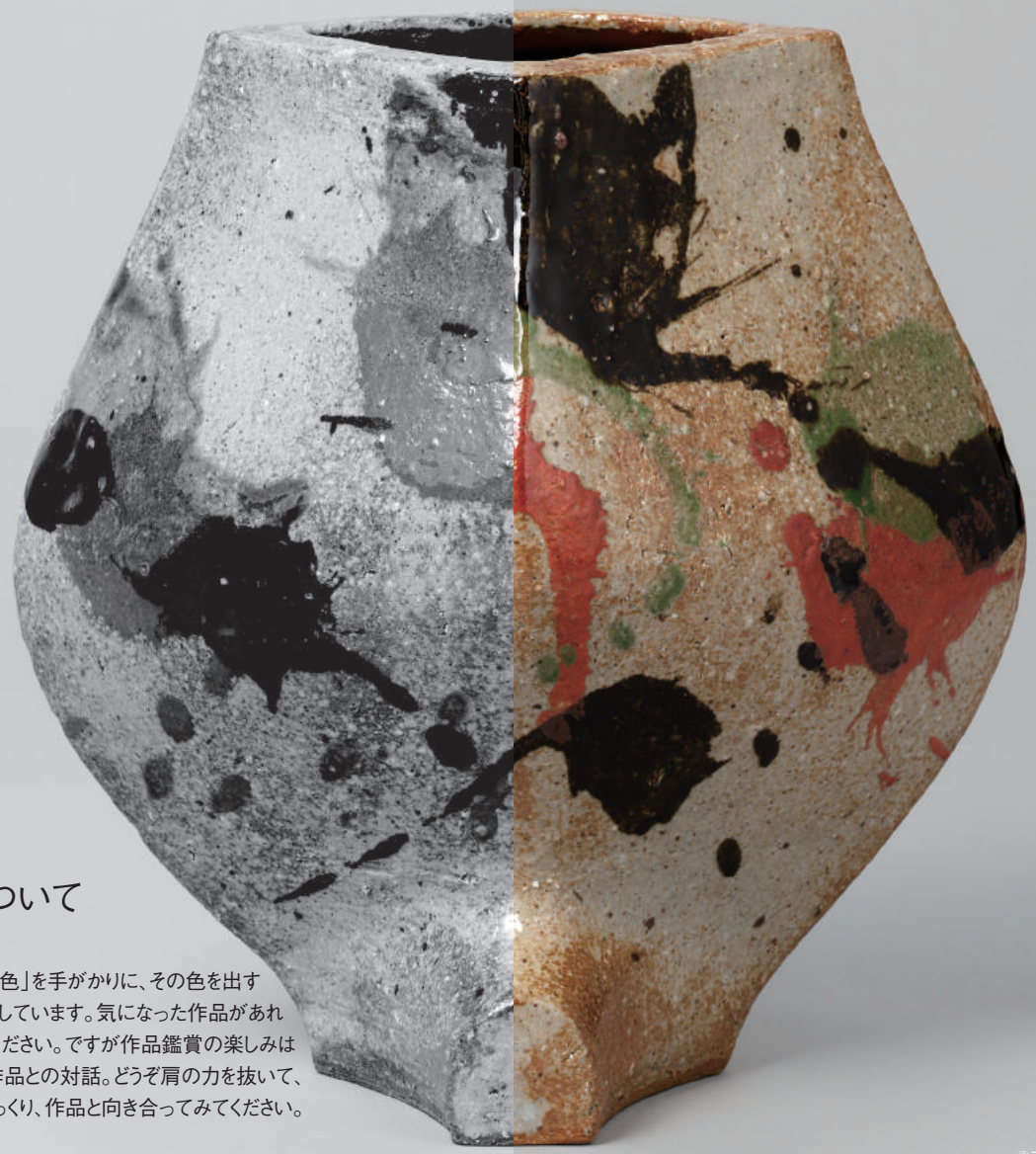
河井寛次郎、1935（昭和10）年9月、鐘溪窯にて

河井寛次郎が1920年に譲り受けた五条坂鐘鋳町の登り窯。近くの方広寺の「国家安康」梵鐘、またそばを流れる渓流（音羽川）にちなんで「鐘溪窯」と名付けられました。寛次郎は後年、なぜ京都に拠点を定めたのかと尋ねられた際に「この窯があったから」と答えるなど、最後まで鐘溪窯にこだわり膨大な量の作品を制作しました。

京都新聞創刊140年記念
川勝コレクション　鐘溪窯
## 陶工・河井寛次郎

会　　期｜2019年4月26日（金）～6月2日（日）
会　　場｜京都国立近代美術館
開館時間｜午前9時30分～午後5時
ただし金曜日、土曜日は午後8時まで開館
＊入館は閉館の30分前まで
休 館 日｜毎週月曜日、5月7日（火）
4月29日、5月6日（月・祝）は開館
主　　催｜京都国立近代美術館、京都新聞
特別協力｜河井寛次郎記念館

# 河井寛次郎
# 鑑賞ガイド



## このガイドについて
About this guide

河井寛次郎の作品の「色」を手がかりに、その色を出す代表的な技法をご紹介しています。気になった作品があればぜひ参考にしてみてください。ですが作品鑑賞の楽しみはなんといっても本物の作品との対話。どうぞ肩の力を抜いて、まずはじっくり、そしてゆっくり、作品と向き合ってみてください。

©京都国立近代美術館 2019

## 赤
Red

### 三色打薬
さんしきうちぐすり

柄杓（ひしゃく）ですくった赤、緑、黒などの釉薬を作品に向かって打ちつける。偶然性から生まれる瞬間的でリズミカルな美を楽しむことができます。

20｜三色打薬扁壺｜1962年

15｜辰砂筒描扁壺｜1950年

### 辰砂釉
しんしゃゆう

銅を含む釉薬をかけた器や壺を酸素の少ない環境で焼成すると、赤色に発色します。寛次郎は作陶初期からこの技法を用いました。若いころから釉薬研究に励んだ寛次郎ならではの美しい発色が特徴的。

## 黄
Yellow

### 三彩
さんさい

黄、緑、茶など三色の釉薬で、ルーツは中国唐時代にさかのぼる。寛次郎の初期作品に多く見られます。

49｜三彩双魚文壺｜1922年

## 青
Blue

### 呉須
ごす

コバルト化合物を含む鉱物からなる顔料、釉薬。この釉薬をかけて焼くと藍色に発色することから「瑠璃釉」とも呼ばれます。

256｜呉須筒描陶板「手考足思」｜1957年

111｜海鼠釉片口｜1929年頃

### 海鼠釉
なまこゆう

ワラや灰などを溶かし、銅や鉄を加えて作る白く濁った釉薬。中国から伝わりました。藍紫色が一般的ですが、他に青、赤、白、黒などもあります。

## 茶
Brown

### 鉄薬
てつぐすり

鉄分を含む釉薬を総じて「鉄薬」といいます。含まれる鉄の量と焼き方によって茶色、黒、黄、青にいたるまで、さまざまな色を発色します。

173｜鉄薬丸紋壺｜1938年頃

掲載作品は全て京都国立近代美術館蔵。番号は、展覧会場での作品番号です。

### 筒描き
つつがき

竹の筒の下部の側面に注ぎ口がつけてあり、筒の中に白化粧土などを入れ、その化粧土を器の表面に盛って線を描く技法。

### 泥刷毛目
どろはけめ

寛次郎が筒描きを失敗し、器から化粧土を拭き取ろうとしたとき偶然にその拭き後の面白さに気づいたことから始まりました。のちに、皿や壺など数々の作品に用いられるようになります。

249｜呉須泥刷毛目扁壺｜1955年

### 流描き
ながしがき

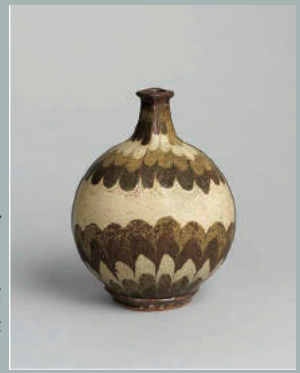
柄杓などに釉薬をすくって、皿や壺の表面に釉を流しながら装飾する。寛次郎の親友・濱田庄司は流描きを得意とし、大皿に一瞬にして模様を作り出した器などを残しています。

119｜流描き鉢｜1930年

☞ 第二章「民藝運動の中で」にて、濱田庄司の作品もご覧いただけます。

### 練上
ねりあげ

色の違う土を組み合わせ、金太郎飴のように断面を利用して模様を作り出す。寛次郎は、壺や器に練上の技法を用い、断面を引き伸ばしたり曲げたりと、さまざまな工夫を凝らしています。


165｜練上扁壺｜1937年